

志賀原子力発電所 1号機における 燃料プール冷却浄化系ポンプの停止・再起動について

令和6年能登半島地震により、1号機燃料プール冷却浄化系ポンプ（以下、「FPCポンプ」という。）が停止したが、その後再起動している。以下に状況等について示す。

1. 時系列

1月1日	地震発生前	1号機 FPC ポンプ(B)号機により使用済燃料プールを冷却（使用済燃料プール温度：29.5℃）
	16時10分	地震発生 1号機 FPC ポンプ(B)号機停止
	16時11分 ～25分頃	地震により警報が多数発生したため、中央制御室にて状況確認
	16時16分頃	1号機 FPC ポンプ停止を運転員が認知
	16時16分	火災報知器動作（タービン建屋） ⇒現場にて火災がなく誤動作であることを確認
	16時28分頃	当直長は FPC ポンプ復旧を最優先にするよう指示
	16時35分 ～49分頃	FPC 系再起動手順の確認、現場移動、現場での状態確認、再起動のための系統構成を実施
	16時49分	1号機 FPC ポンプ(A)号機再起動 (使用済燃料プール温度：29.5℃ 変化なし)

以降、巡視点検に合わせて1日1回運転状態の確認を実施している。

2. ポンプ停止の原因

地震の発生前、志賀原子力発電所1号機は志賀原子力線（275kV）から起動変圧器を介して受電していたが、系統ショックにより志賀原子力線（275kV）の電圧が一時低下したため、ポンプ起動維持のための自己保持回路が外れ FPC ポンプが停止したと推定している。

3. 系統構成

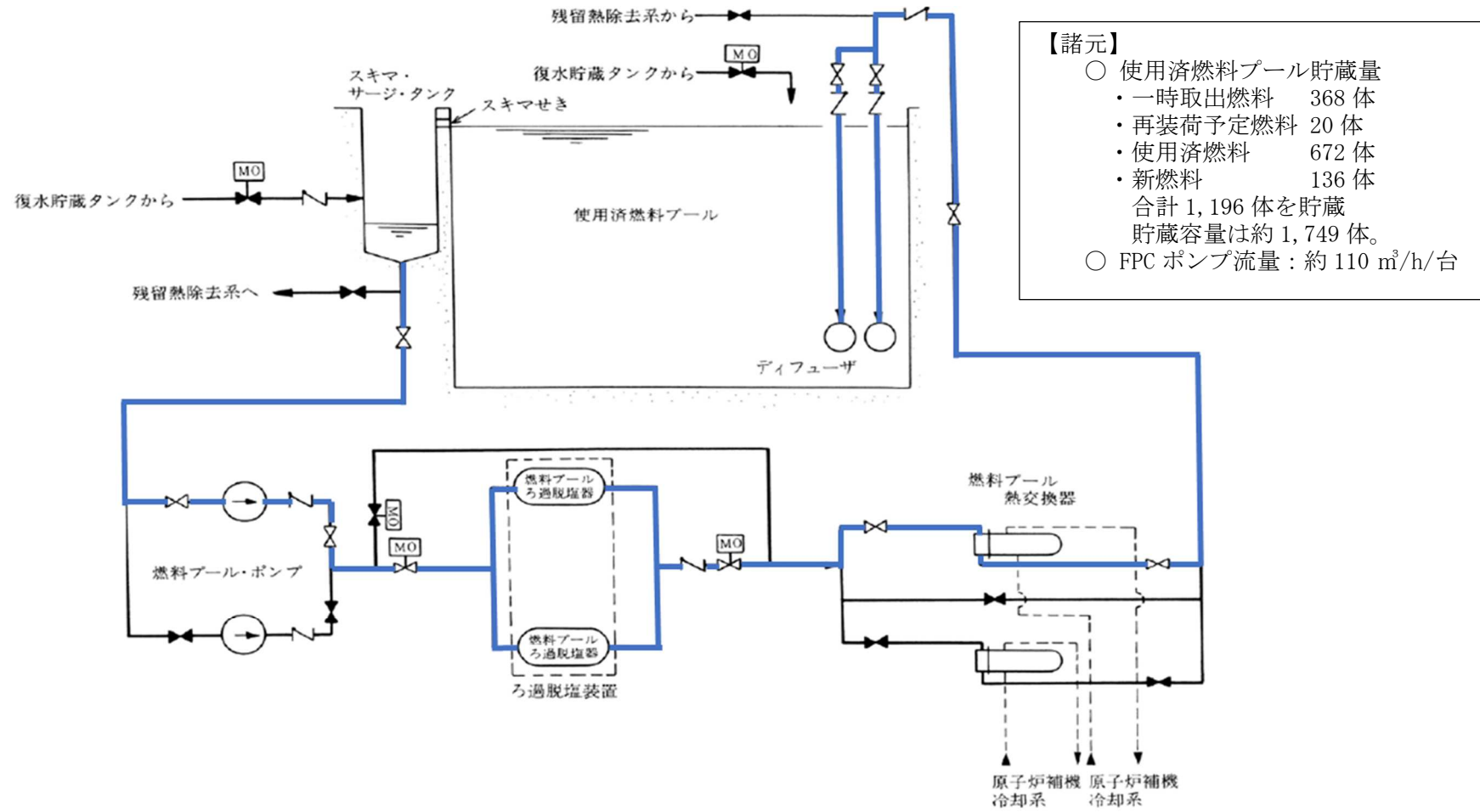


図1 燃料プール冷却浄化系系統概要図

以上